

3割の従業員がAIツールを秘密で利用、生産性向上を隠す背景に企業はどう対応すべきか



23161426
金茹鳴(ジンリュミン)

課題背景 1

1. 「（職場におけるテクノロジーレポート2025年版）」によると、AI ツールを職場で使っている従業員の**ほぼ3分の1が、そのことを会社側に伝えず、秘密にしているという。**

職場でのAI使用を隠したがる心理的な背景

- ・ AIを使うことで、同僚より「ひそかに優位に立っている」と回答した従業員は36%だった。職場という競争が激しい環境では、AIツールは強みであるため、使用していることを明かそうとしない。
- ・ 担当している業務を部分的にAIが遂行できることを雇用主に知られてしまったら、自分の職務が消滅してしまうのではないかと不安を感じている従業員は30%だった。こうした恐怖心は、AI使用の増加に伴う自動化と雇用の確保を巡って不安が広まっていることの表れだ。

課題背景 2 「AIによる生産性」が抱える矛盾

1. 従業員が懸念しているのは、AIで生産性が向上しても、能力を認められることもないし、追加報酬が支払われることもないまま、仕事が増えるだけではないかということだ。こうして、生産性が向上したとしても、報われるよりむしろつらい目に遭うと従業員が感じてしまう構造が生じる。
2. これはまた、オフィス労働者の46%が「会社から支給されたものではないAIツールを使っている」と回答した理由でもある。従業員が、生産性の向上はキャリアにとって逆効果だと受け止めれば、誰にも気づかれたくないとおのずと気を付けるようになる。

課題背景 3 AIツールの無断使用に伴うセキュリティリスク

1. 従業員がAIツールを無断使用すると、**セキュリティが大幅に脆弱になる**という深刻な問題が生じる。会社側が使用を承認していないAIプラットフォームを使用しているうちに、**セキュリティ基準を満たさないシステムに極秘データをうっかり流出させてしまう恐れがあるのだ。**
2. 会社から承認も受けない状態で従業員がAI技術を使用すると、**悪意ある行為者を呼び込んでしまったり、業務上の規則や契約に違反してしまったり、会社の貴重な知的財産を危険にさらしたりする恐れが生じる**

どう対応すべきか(信頼のギャップを埋める)

- **AIに関する方針を明確にする** — AIに関するガイドラインを定め、使用可能なAIツールを明確にすれば、従業員はより安心し、隠すことなくAIを使用できるようになる。こうした方針は、データのセキュリティ懸念に対処すると同時に、イノベーションを推進するものであるべきだ。
- **「AIによる生産性向上は不利」という見方を解消する** — 企業側は、AIを使用して生産性を向上させた従業員について、仕事量をただ増やすのではなく、その努力に報いなくてはならない。そのために、業績指標や報酬体系を見直す必要もあるだろう。
- **包括的なAIトレーニングを実施する** — 調査では、「勤務先は、AI導入に力を入れているものの、AIツールを使いこなせるようになるための研修を十分に行っていない」と答えたプロフェッショナルが44%を占めた。スキルのこうしたギャップを埋めれば、AI使用が常態化しやすくなる。
- **心理的な影響に配慮する** — リーダーは、AIを使いこなせるスキルの素晴らしさを認め、AIを活用してより良い成果を達成する従業員を評価すべきだ。

コメント

1. AI活用を推進する企業にとって、活用して生産性をあげても自分にメリットがないという社員への対応は重要なポイントですね。AI活用に、人事評価制度や現場にあった研修制度が追い付いていない企業はまだ多いと思います。
2. AIの力により人をエンパワーして業務を効率化すること、あるいは業務そのものを無くしてしまうことにフォーカスが当たりがちですが、実応用に際してはその後の世の中をどう設計するかは非常に重要です。1人あたりの生産性が上がるからこそ、それに見合った評価設計にする。これまでは多忙につき挑戦できていなかったような創造的な(人間らしい)仕事に取り組めるようになるので仕事はなくならないと伝え、そのような取り組みにより事業貢献も大きくなるはずなのでそれに見合った評価設計にする。もちろん、そのような仕事を生み出すことは企業に求められるでしょうが、それこそが競争力に繋がるものと思います。

感想

- 1.まとめると、職場でAIを利用して生産力向上を隠すことに対して、適切な人事評価制度、奨励制度、従業員の不安・心配の問題点を解決することが非常に大切だと考えます。
- 2.また、今は三割の従業員、将来は5割の従業員になるかもしれません。現代社会もAIと離れない時代です。将来、AIは更に賢くなる可能性が高いです。よって、企業も時代の流れに従って、従業員（人間）とAI共存できる職場を作る必要があります。これを「個人の問題」とせず、組織全体でAI時代に適応する姿勢が、今後の成長のカギになるでしょう。